



## 強皮症症例における、精神的気質の食道症状への影響

2021年1月1日から、2025年3月13日までの間に、当院消化器・肝臓内科で食道内圧検査を受けた際に、症状に対する警戒心・不安といった精神的気質を評価する質問票である Esophageal Hypervigilance and Anxiety Scale (EHAS) に回答頂いた強皮症の患者さん

### 研究協力をお願い

当科では「強皮症症例における、精神的気質の食道症状への影響」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2021年1月1日から2025年3月13日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、強皮症の状態精査のために食道内圧検査を受け、さらに症状に対する警戒心や不安といった精神的気質を評価する質問票である Esophageal Hypervigilance and Anxiety Scale に回答した患者さんにおいて、精神的気質と食道症状との関連性を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

### (1) 研究の概要について

研究課題名：強皮症症例における、精神的気質の食道症状への影響

研究期間：研究実施許可日～2026年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 病院講師 星川吉正

### (2) 研究の意義、目的について

一部の強皮症患者さんにおいて、食道の蠕動が弱くなることが報告されています。しかし、蠕動の低下が必ずしも逆流症状やつかえ感などの食道症状と関連しているわけではありません。強皮症患者さんにおいて、これらの症状には、食道の蠕動などの生理学的な機能だけでなく、症状に対する警戒感や不安といった精神的気質も大きく関わっている可能性があります。本研究は、症状の程度と精神的気質の関連を明らかにします。

### (3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2021年1月1日から2025年3月13日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて、強皮症の状態精査のために食道内圧検査を受け、さらに症状に対する警戒心や不安といった精神的気質を評価する質問票である Esophageal Hypervigilance and Anxiety Scale に回答した患者さんの、食道症状の程度と蠕動異常もしくは精神的気質との関連についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、症状、既往歴、内服、アレルギー、症状質問票の結果、上部消化管内視鏡検査結果、食道内圧検査結果、採血結果（強皮症に関わる自己抗体）、強皮症の合併症の有無等

### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

### (6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 病院講師 星川吉正

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6725

メールアドレス：y-hoshikawa@nms.ac.jp